

鉛糖試驗

癩疾治方

急救三法

醫治雜錄

緒方說

坪井說

宇田川說

精得堂藏

藏



Pisica kenpita

leenm

leenm

St. Charles

leenm

leenm

leenm

leenm

leenm

Pisica

kenpita

Handwritten vertical text in cursive script, possibly a signature or a list of names.

Handwritten characters, possibly a signature or a name.



紅糖試験

緒方章公

記

天以肺病一十如地一六学者コップ著
心所創病一於十區家能傳効一米呂コ敷知セ甘
ル可一スルリ肺病ハ創傷十ル力故ニ直リ外科
ニ属スハキカ如シト釜氏可患此隱匿ナ外ニ見レ
サレ故ニ直十ニ可体コ施ス一能ハス是ヲ以テ
唯内疾ノ主トナル所トス唯内部ニ放テハ温蒸
氣及ニ其状一モノヲ吸入セシムル一三十リ局
ヲ週旦川肺ハ可運動常ニ絶ヘスナ且リ常ニ於
天ニ暴能スル故ニ可治愈其々難シトス

日新書院

肺癆一治方^十
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

予本心ニ属スル業而ハ吉那依荷土志遠志阿片
及ニ諸滋粮割是ナリ而ナ予ハ唯鉛糖ヲ以テス
偉効之ニ若リモナシトセリ
夫ニ鉛ヲ以テ古来内用セルハ固ヨリ世人ノ
各リ^ニ所ニナ殊ニ^ニ *cinetic friendship* *for life*
以テ肺及ニ肝ノ膿瘍骨熱及ニ *persecution*
chronic
等ノ療業トセリ然レモナシキナ

一ル製造タル甚々分離ニ合セ入何トナレバ
 今エーゼルヒトリオーロト鉛糖トヨ取テ之ヲ
 合スルニ鉛糖直チニ溶解シ反メ消化シ難キ一
 箇ノロドヒトリオールトナレハナリ此ニ由
 テ之ヲ觀ルハ此ノチンキチエールニハ金リ鉛
 シ合マサルモノナリ

anti-hecticism bacteria
 全に平腹以テゴースガラストシンキアルシエ
 ールセルトント成ル此薬を来之ヲ膿消ノ肺様
 弱症に遺精ニ偉効アリトス而チボレール
 此レヲ骨療ニ偉効アリトス。此用シエツルシ

エル。之ヲ以テヨリ。羸弱。防リ。良薬トシ
テ。賞。譽。シ。近。世。ニ。至。テ。ハ。ス。ト。リ。ユ。ハ。人。亦。必。之。ヲ。
肺。病。及。ビ。癰。痛。ニ。借。効。アリ。ト。セリ。是。故。ニ。世。人。皆。
之。ヲ。稱。用。ナ。ユ。丁。斤。効。収。矯。力。ニ。アリ。ト。ハ。九。リ。メ。
タ。一。ル。カ。タ。キ。ハ。ミ。十。斤。効。相。等。キ。モ。一。十。リ。唯。錫。
姜。一。諸。金。ニ。於。テ。ハ。未。タ。斤。効。シ。身。人。ニ。十。ス。シ。見。
ル。ノ。ミ。カ。一。ス。テ。ル。デ。一。リ。シ。カ。フ。ト。人。皆。一。種。
一。鉛。割。ヲ。製。メ。癰。病。ニ。施。用。セリ。斤。方。八。分。一。硝。石。
酸。ト。一。分。一。鉛。糖。ヲ。合。和。ス。ル。モ。一。メ。斤。用。量。十。
倍。ニ。過。キ。ス。
○。又。一。法。ゴ。一。ラ。ル。ト。人。ノ。腎。ア。キ。ス。タ。ラ。リ。ト。シ。

以テ製シ曰。一。二。三。四。用。ユ。ル。モ。一。右。リ。
此。内。用。方。長。リ。年。々。セ。ラ。一。タ。リ。一。金。モ。近。世。ニ。至。
テ。ビ。ル。デ。ア。ラ。ン。ド。名。及。ビ。ア。メ。リ。ユ。リ。ン。等。ノ。
諸。医。ニ。由。テ。再。ビ。復。タ。世。ニ。稱。用。セ。ラ。ル。一。ヲ。得。
タ。リ。
鉛。ノ。内。用。一。奔。年。セ。ラ。ル。者。ハ。世。恒。之。ヲ。誤。認。テ。
毒。害。ノ。毒。アリ。ト。ナ。ヒ。ル。一。カ。故。ニ。斤。試。驗。サ。ケ。レ。
ハ。十。リ。偶。ニ。之。ヲ。用。ユ。ル。モ。或。ハ。斤。用。量。甚。タ。十。
リ。メ。多。シ。養。エ。ル。ニ。至。ラ。サ。ル。カ。或。ハ。毒。者。ノ。肺。已。
ニ。毀。敗。メ。救。フ。可。ラ。サ。ル。取。ニ。之。ヲ。用。ユ。ル。カ。故。
終。ニ。一。驗。ヲ。見。サ。ル。ニ。至。ル。

一、醫書云、鉛ヲ用ユルノ規ヲ定メテ云フ患者若
シニ朱ノ如キ劇症ニ付ナシハ宜リ一斗ノ
シノ鉛糖ヲ以テ二十四粒ノ間ニ用エヘシト是
又々何等ノ藥見ニ本リヤ實ニ是レ無替ノ忘談
ノミ若シ此如リ少量ニ用ユルハ鉛ヲ十箇
ノカリ身入ニ達セシナヌ何ノ能リテ効驗ヲ見
ルヲ得ン若シ實ニ之ヲ用ヒテ傳効アリ
シ歟スル者ハ宜シリ尋常ニ用ヒテシバハ方
ニセシヲ運用スルテ奇效最モ見ル
若シ又誤治ナク速ニ与フルニ付ドランナ
ク及ビ失効甚クハ一斗ノ以テセハ扶起セ
ル

黃水ニ導リ導考直リ慎戒セヨ然ルニ世ノ
此劑ヲ以テ常ニ用ユル者アリ何リテ無替ナル
一、甚トキヤ且川ノ無替藥術此ノ如シト云モ却
テ傳効アル所ノ云フ以テハ恐懼慎戒メ之ヲ弃
去ス亦々捧腹ニ堪ヘヌ然レモ肺病ノ如キ危
劇ノ病ニ於テテ傳症劇リ患者之カガニ始メト
死ニ頻スルハ宜リ傳症ヲ治スルヲ知ラズ本
病ニ害アルモノモ亦々用エ可カラサルヲ得
テ今鉛劑ヲ以テ實ニ肺病ノ良藥ト云フ餘
蓋ト云フ觀ヲ以テ功實ニ決定セシト歟スルハ

誰レモ、^ハ急ナキヲ得ニ何トナシハ真ノ肺ヲ
ハテ治最モ難ナク、如キ劑ヲ以テ此ヲ施用ヤ
ントシテ亦微症ノ順次ヲ比考スルニアラサシ
ハテ当否并シ難ナシハナリ
凡ソ一病ニ施用スル藥劑ハ常ニテ害ヲナサバ
ルヲ以テ佳ナリトス、故ニ假令テ藥患者ヲナシ
全ノ快復ヲ得セシマスモ危害ノ諸症ヲ減却ナ
シ性命ヲ伸ハシマスハ以テ良知ヲ奏スルトナク
譽セサルヲ得ス、今醋酸鉛ハ肺ヲ、於テ諸藥
中、最モ毒ノ効ヲ奏スルヲテ力屢々用テ知ル所ナ
リ、學者疑フ、勿レ學者ヨリ常ニ之ヲ用テ習得

ハ自テ毒ノ人身ニ害ナキヲ知ル可シ、力
常ニ患者ニ用スル所ノ鉛糖ノ量ハ日ハニ六分
トインテ以テ而テテ患者症痛惡心及ニテ他
諸症ヲ奏スルヲ勿ンハ漸リ増加メ長用ス若シ
テ患者狀酢酸鉛ヲ施用スルハ門ニ胃部ノ壓迫
腹部ノ疼痛惡心嘔吐下利等ノ諸症ヲ奏スル中
ハ恒ニ速ニテ施用ヲ止ムハシ諸傍症直ニ
治セシ、此劑ヲ長用メ害ヲ後ニ殘ス、ハ予未ダ
嘗テ之ヲ見ス唯偶々瘵ノ一患者僅少ノ鉛糖ニ
タヘ久メ直ニ惡心嘔吐下利ヲ奏シ、鉛糖ヲ
止ムハ直ニ諸症ノ減退スル者ヲ目撃セリ

○偶々又鉛ニ由テハゲシキ下利ヲ発スル者アリ然レハ直ニリ阿ガリガハヘテ之ヲ拒リシ
鉛糖ハ示性甚ク患者ノ腹ニ慄馴シ易キ力故ニ
可用量日々増加スルヲ要トス今リシ昨日ハ
一ゲレイン半許ノ鉛糖ヲ以テテ便利發汗増加
セハテ体中よりテ効ヲ奏スルモノナレニ減許リ
宜シリ増加ナ用ニスンハアラス
鉛糖ヲ肺中ニ投テリテ力ヨリ皮表ノ血管等ト
肺中ニ投テル膿液分離シテ以テ良液
散溢シ拒キ膿ノ分離ニ減却シ因テテ肺部ノ瘰

癰ヲ造成ス然レ肺中ニニ創瘻ヲ生シ殊ニ許
細膿胞ヲ成スニ至ラハテ施治最ニ難ナ此劑
モテ全効ヲ奏シ難シ然ト雖モ學者ヨリ覃思メ
テ依候ヲ考ヘ保々ニテ可用量ヲ増サハ幸ニテ
瘰癧ノ膿ノ減退ヲ得ルヲアテニテ若シ此劑
者ニ危重多ク許シ此劑ニ由テ拒防スルヲシ
得ハテ利益又々如何リヤ
ist der Seicht
gelten dass am Seicht see on the foot
ist he kein gen die in
ハ鉛糖ト共ニ致那依消テ兩等ヲ用ニ旦シ後
難シ食テテ拒テ以テ患者ノ精カト諸君ノ増進ス

ルシ
凡リ鉛糖ヲ用エハ他割リ佳ラス何トヤシハ
テ後更々敗腐シ易リノ水ニ溶化シ難キハナ
リ即チ水中ニ之ヲ和スルハ唯テノ含ム所リ
醋酸ノニ分離シ鉛ハ一種ノコロドクキセーデ
トナリテ沈重シ水底ニ粘着ス故ニ此ヲ患者ニ
用エハ尋常ノ量ヲ以テテ効ヲ奏セス且ツテ
用量ノ増減ヲナスヲ甚々難シ而ルニ此ハ他割
トメ用ユル中ハ徐々ニ腐敗シコロドカルモ
トナリヨリ全身ニ毒達メ其功ヲ用シ遲ス示タ
魯テ此糖ヲ *glycerol* *the* *dicacetyl* 中ニ溶化

セシメテ用エハナリナセリ然モ亦テ製法割ニ
劣シリ
夫ハ他割ハ此ニ他茶ヲ加フルニ妨ケナキ故
ニ亦テ利便ニ差三人鉛糖ノ水割ニ和スル金電
光譜阿美藍液若リハ阿比級下割ヲ以テスルハ
ハテ鉛直下ニ凝テ沈下ナリ並割若クハ浸割
ヲ以テスルモ亦然リ故ニ西ウ之ヲ禁ス亦ハ亦
タ之ヲ散割ニ和スルヲセス何トナシハ僅少
ノ量ニ於テ増減シ難キハナリ今予カ常ニ膠
用スル所ノモノハナリ方是ナリ

parham water *is* *very* *good*

10

24

2

7

天

7

以

丁

0 0

一

20

10

弥布涅迦列布羅奇駿方

坪井記

列布羅治法

古今列布羅病癩病性一治法藥割百餘一ナラス今

予力見ル所以ナシハ此治法ヲ分テ三綱ト

ナス一尤当シリトス○第一綱預防治方第二綱

究理治方第三綱妙効治方是ナリ

預防治法

予第一治ハルリ体中ニ在ル邪毒此病ノ原因ト

ナリ予此ノ如キ患害ヲ催起スル所以ノ者ヲ駐

除スルニアリ○予第一治ハ患害ノ深テ致シ健

康ニ僅迄ス所以ニ此置ニアリ○予第二治ハ患

陽氣。小。氣。俗。以。于。患。者。一。表。因。于。清。降。之。表。
發。蒸。氣。引。十。常。一。如。リ。十。鮮。屬。及。已。病。人。如。
十。者。之。緩。和。之。以。于。表。因。一。体。質。引。十。常。一。如。十。
之。シ。ム。可。シ。〇。列。布。羅。一。症。未。久。甚。之。十。系。因。了。
リ。于。体。中。之。振。振。ス。ル。之。非。ル。者。ハ。尤。モ。此。一。如。未。
預。防。治。法。二。因。于。良。能。一。力。引。扶。助。ス。ル。件。ハ。自。う。
愈。エ。

究理治法ヲ論ス

此。治。法。ハ。一。ハ。病。理。学。ノ。則。ニ。從。テ。之。引。治。ス。ル。事。
〇。差。之。堅。硬。不。固。化。一。食。糧。或。ハ。右。部。一。分。難。檢。
ヲ。失。ス。ル。等。二。因。于。腸。胃。中。汚。物。引。生。之。此。二。因。于。

更衣不可者或ハ門脈中血脈運行ヲ妨害セシ者
ハ。下。利。ヲ。施。ス。可。シ。体。質。稍。刺。衝。性。ニ。傾。リ。者。ハ。
清。涼。劑。引。用。之。之。反。十。運。行。急。慢。ニ。属。ス。ル。者。ハ。
刺。戟。與。奮。一。引。用。フ。可。シ。即。牛。大。黃。藥。刺。巴。芦。會。
蘇。芦。等。是。十。リ。或。ハ。甘。朮。引。加。フ。ル。モ。可。十。リ。〇。右。
人。此。病。ニ。臨。血。引。施。ス。陰。ア。リ。然。レ。氏。此。陰。ハ。刺。終。
或。ハ。水。蛭。角。陰。引。論。セ。ス。皆。不。當。十。リ。ト。ス。〇。差。之。
其。患。者。一。体。質。傍。老。一。諸。症。ニ。歟。衝。性。引。帶。ニ。果。メ。
厚。血。引。引。露。ス。者。ハ。止。ム。フ。得。ス。慎。戒。シ。テ。
右。人。ニ。從。フ。可。シ。
〇。攝。生。法。引。腹。ス。食。糧。引。節。ニ。シ。以。テ。神。終。リ。機。能。

三ヶ所、ボイリ、眞ヲ以テ其目的トナセルニ似たり

日新齋藏

或ハ大ナル奇効ヲ奏シ或ハ細ナル奇効ヲ奏ス
○奇効割ハ内服外用ヲ指セテ其數極メテ許多
ナリ若シ此病ヲ療スル者預防法ニ依テ其原因
ヲ除キ或ハ究理治法ニ由テ其治法ヲ施スト金匱
掌于其効ヲ見サレバハ恒リ此割ヲ撰用ス可キ
アリ而テ之ヲ撰用スルハ甚タ難シトス蓋シ匠
家ノ所見各異ニテ從來ノ經驗或ハ異同アリ且
術者甲ハ称用スル割ニハ以テ否トナシ乙ノ
奇効スル処ナリヲ以テ奇効割ノ撰用極メテ難
シニメ夫々一定ノ規則アルナリトシ
○古人此病ニ於テ峻下割ヲ称用ス殊ニ黑蘗
白蘗

白蘗ヲ称用ス○加羅蘇尼藥割巴芩金等ニテ
此等ニ充テ可シ○蓋シ下割ハ只ニ快ヲ一舉ニ
取ルニ足ルト金匱未タ十全ノ快復ヲ致スト能
ハズ○蓋シ患者腹中ノ汚穢ニ表因ノ患腸ニ引
導ス
○安胎護胎製割乃ニ尋常安胎護胎ニ硫黃硝石
加ヘタル割ヲ單用ト或ハ複用シテニ微ニ効シ
奏シ或ハ金匱効ナシ但シレバ一ツセエイン
ビシアテニ無効割尙効アリ
○水銀製割或ハ大ニ称用シ或ハ大ニ監撫ス但
シ割セシモノニ良割ナレバハ一ツラニ効ナ

と猛走う焼所ニ溶化ししプウノ秘薬トシ太ニ
賞譽スレモ此劑ニ燥性ノ諸病ニ効アルヲ其
他水銀劑ヨリム。ハイリキニ用ニント欲セハ
飲劑及ニ安奠護担製劑ヲ他用ス。し
○礦酸イプウニ稱用ス此酸シケウルボリリ
ナイケウモハワトスーテニ緊要タレモ硝
石酸海塩酸ヲ以テレプウノ奇効薬ト為シ難シ
○羅德塩殊ニ驚ニ典塩羅德製劑ルヲサルア
フ鉄並取チ峻効アルヲ實驗ス
用法 十滴ヨリ三十滴ニ至ル日ニ三次
ホリレニ及ニレアリソンノ各ノ重ル鮮下散出ル

換蘭斯ニテ頑固ノ症ニ稱用ス口エウスニ地ノ町
ノ病陵ニ於テ垂ル鮮下散出ル甘汞書下散出
ルヲ拔撰シ必用ス
○安奠羅右加里ルヘイスルヘルペスニ大ニ
稱譽スレプウニ次チヲ專用ス
○安奠羅右加里ニムニハ麻風失聖或ハケチ
ムカニ一カウチニムニハ金硫黄ニムニハヤン
ハスルアツトプニムニハ調合分ニ三ニ包トシ三十
ニ取之間用尽ス左劑ヲ以テ全身或ハ局部ニ於
テ抗拒ヲ顯スニテ持重スベシ
○諸君ニ安奠羅右加里ハ一ニ製法ニ安奠護

担ハシシ製伏ス蓋シ次二箇ノ若相合ナリ
プラノ原因タレハナリ
○右ノ此病ニ坂ヲ称用セリ而ナ亦用方モ亦一
ナラス
○或ハ干肉ヲ末トシ或ハ煮テ羹汁トシ与フ坂
皮以テ或ハ効難ヲ難ヲ養畜ニ患者ヲナ其難内
ヲナ其食ハシム
○當此用ナシ
○芫菁下効難出ル他ノ頑固ナル皮膚ノ痛ニ於
テハ如リ亦々以テ丸ヲラリ奇効割トセリ○
イニラニ合及ニハルコニフルハ之ヲ以テ其

効未見ス○ニイトリトウイン及ニケレーン
ハ此割ヲ以テレプラノ有力割トセリ或ハ頑固
ノ症ニ之ヲ用ニテ四週ヨリ六週ニ至リテ全治
スルヲ見ル○其用法ハ四箇ヨリ五箇ニ至ルマ
テ緩和ノ茶汁ニ和メ与ヘ漸次ニ進テ十箇ヨリ
十五箇ニ至ルヲ然レモ漫リニ其量ヲ増
テ或ハ忘意ニ之ニ久服セシムルヲ勿レ蓋シ此
割ハヨリ飲食消化機ヲ害シ四ツ諸般ノ患難等
ヲ生スルヲアレハナリ
○草木中ニモ亦ヨリ列布羅ニ効アル物諸品
アリ即チヤリサバリルヲ瑞香皮榆皮リユス

シカンス等ナリ。○予カ常其ノ居ミ。從ハハ榆皮
一ノヨリ。十二ノテ。並利トシ内服セシ其澤
ヲ取リ更ニ茶汁ヲ搾之ヲ以テ建茶其部洗ニ竟
ニレプラシ全治ヲ致セルナリ。
○胡瓜及ニアキニル个ニ新鮮ナル者或ハ酢
ニ浸シ用テレプラシ奇利トス或ハ此草ノ實
及ニ葉ノ並利ヲ用ユルナリ。
○ウイルン氏ハ白蔘芦黑蔘芦根下發生ルヲ
味量ナ利セサルニテ用テ良効ヲ得ルナリ。
○用益 氏曰芍药泉ハレプラシ奇効ヲ具ナリ。
○用益

芍药泉一ノ並メ一ヒ一液ヲ取リヨリ芍药泉
ニテ一量ヲ与フ竟ニ建茶トシ一ヒ一服スル
ニ至ル
○外 用 此 洗 汁 以 于 洗 滌 割 ト 及 ○ 用 于 八 日 二 至
ハ 十 効 ヲ 見 ル ○ 脆弱 知 覺 シ 易 キ 人 ハ 此 藥 ニ
由 テ 心 悸 動 因 則 眩 暈 等 ヲ 免 ス ル ナリ 然レモ
此 症 ハ 其 量 ヲ 減 ス レ ハ 白 芍 愈 工 或 ハ 同 乾 ニ 擇
葉 丁 散 生 尔 散 割 ト ナ シ 与 フ レ ハ 三 リ 此 藥 ニ 堪
ユル ナリ 得 ○ 此 藥 以 于 患 者 二 十 三 人 ニ 曝 シ
其 二 十 一 人 一 全 愈 セ リ
○ 外 用 割 毛 赤 万 種 ア リ 今 其 大 綱 シ 九 ニ 掲 示 ス

榆皮洗除刮水銀膏也。二硫黃膏。十。二。八。猪脂。四。
二。和。三。每。夜。患。部。二。擦。刮。ト。三。每。朝。后。硫。黃。水。若。り。
ハ。羅。低。稀。水。リ。以。于。清。除。又。同。取。二。硫。黃。リ。以。于。製。
ス。ル。里。段。那。埵。若。野。菜。莖。煎。汁。リ。内。服。セ。ム。〇。此。
劑。二。中。于。結。痂。自。リ。鮮。脫。シ。皮。膚。潤。沢。リ。生。シ。痒。止。
亦。随。于。自。リ。散。ス。〇。療。法。損。害。十。リ。十。二。日。ヨ。リ。百。
九。日。二。至。ル。〇。取。ト。ナ。ハ。怪。キ。反。動。リ。生。ス。〇。又。景。
状。二。從。于。水。銀。諸。藥。及。二。他。一。礦。物。一。軟。化。膏。リ。佐。
用。ス。ル。シ。
〇。治。法。毛。亦。療。術。一。十。リ。以。于。皮。膚。リ。清。淨。ニ。シ。
蓋。氣。二。羅。進。ス。〇。病。癰。未。リ。大。ニ。侵。裏。セ。ス。或。ハ。其。

景。現。信。成。リ。布。望。セ。ハ。第一。洗。除。法。並。漏。法。
蓋。氣。時。ホ。リ。試。シ。南。后。硫。黃。泉。及。二。硫。黃。リ。以。于。製。
三。タ。ル。浴。湯。羅。低。浴。湯。海。水。浴。ホ。リ。用。ユ。可。シ。蓋。三。
海。水。浴。ハ。最。初。區。ニ。ナ。浴。シ。南。后。海。中。ニ。於。于。浴。ス。
ハ。シ。〇。友。ニ。当。于。痂。リ。進。襲。ス。ル。リ。防。カ。セ。為。ニ。反。
該。敷。田。浴。法。リ。施。ス。可。シ。〇。バ。タ。ト。リ。水。レ。プ。ラ。レ。ニ。
喉。効。リ。備。リ。飲。割。美。ニ。浴。湯。ト。リ。用。ユ。〇。曾。于。患。者。
ハ。十。二。人。以。法。リ。行。リ。其。内。五。十。二。人。愈。ニ。二十四。
人。稍。快。リ。得。タ。リ。〇。余。他。古。今。驗。用。シ。来。ル。外。藥。リ。
九。ニ。持。示。ス。
明。礬。硫。黃。硝。石。生。石。灰。石。胆。礬。

單養

人尿

熊胆

燕窩

白百合

球

右ノ諸藥ヲ實驗スル。レプ。ラ。レ。於テ其驗ナシ
○其酷厉性ハ其他腐爛侵蝕ノ諸藥乃ニ莞
膏亦取トナ施用ヲ要ス○外見ヲ飾ラシ
收ノ如キ諸藥ヲ施ス右皮膚其腐爛侵蝕ヲ被リ
其部ニ於テ新ニ皮膚ヲ萌起シ而シテ竟ニレプ
ノ真症ヲ次リアリ○身体ヲ清潔ニシ戒慎シ作
業ヲ直ニ十分ニ保持スルニ由テレプ
製スルアリ○自然良藥蓋藥ヲ須メ此病ヲ飯良
スルアリ
若者終ニ終久諸病ヲ以テヘル
シ英収水

泡状病狀鮮赤腫物狀等ノ諸病ニ隨テ單飯ニ
分リ○單十ニ者ハ際リ身体諸毒根ヲ即
人皮膚ニ其性ノテイスカラシ
十ニ者ハバヤルベキ他ノケイスカラシ
相合シ発ス便ナシカシユセ梅毒性癩病性癩
性木節腫性木ノ
ヘルペスノ近因ハ一種ノテイスカラシト
リ来ル一異變動ナリ故ニ他ノテイスカラシ
ノ如リ妙効藥ヲ望ム○安多羅右加里ノヘル
スニ於ル硫黄ノス力ニユセ水銀ノ癩瘰癧性
眞護根ノレプニセ伊達尔護人ナルキヤマ子

セ・テイ・スカラ・シ・ユ・シ・ニ・拾・ケル・カ・如・キ・名・種・ノ・デ
イス・ウ・ラ・シ・ユ・シ・ノ・姉・弟・案・ト・一・般・ナ・ル・カ・致・シ・ホ
リ・アリ・氏・安・子・羅・右・加里・ノ・ヘル・ズ・ス・ノ・妙・効・タ・ル
シ・諸・ノ・コ・ム・アリ・セ・ア・ン・ニ・ン・ア・シ・ハ・セ・ール・匠・業
ト・セ・ント・ス

○安・子・羅・右・加里・コ・ール・エ・ン・カル・キ・ハ・石・炭・ト・腎
典・怪・加里・ト・焙・化・セ・ル・者・アリ・色・石・炭・ノ・用・口・ス・蓋
セ・其・水・ニ・溶・化
セ・サル・ユ・ハ・也
○製・法

新・製・ノ・腎・典・怪・加里・セ・リ・極・末・ノ・石・炭・カ・リ・ヲ・取
リ・牛・引・留・メ・ス・鼠・和・燥・化・シ・火・ヨリ・下・シ・ア・ラ・セ

バ・ラ・ール・ニ・シ・温・マ・タル・ハ・細・ミ・ハ・シ・未・テ・詳・單・ニ・乳・け
佳・ナ・代・用・メ・極・末・同・等・ノ・軟・ニ・至・ル・テ・研・磨・シ・一・号
容・ノ・硝・子・壺・ヲ・温・メ・因・密・ニ・収・メ・貯・フ
○硫・化・安・子・羅・右・加里・ス・ア・ン・ニ・ア・ラ・ユ・シ・カ・リ・ム

○製・法
前・方・中・硫・黄・ヲ・リ・加・ヘ・褐・色・加里・ト・ス・製・法・前

・同・シ
○安・子・羅・右・加里・ハ・軟・ニ・大・純・潔・ナ・ル・散・末・ナ・リ・其
味・酷・厉・羅・依・塩・ノ・如・リ・名・ニ・テ・煎・キ・焼・キ・如・リ・煤・臭
アリ・○大・気・ニ・觸・レ・テ・温・ヲ・引・リ・熱・シ・注・流・動・ス・ル
ニ・至・ラ・ス・乾・淨・ノ・気・ニ・逢・ハ・再・ニ・温・ヲ・取・シ・隨・示・示

羅經樣ノ味ヲ失スニ至ル者凡ニ投テ些少溶解シ
 差涌水ニハ甚ヨリ溶解ス○精密ニ製シタル品
 ハ溶解ナキ其底曰等ノ秤量アリ其底ヲ重畳スル
 ニ其色ヲ失フス若シ其色ヲ失スルハ製造精ニ
 ナラザルカ故也○効能ハ健康ノ人ニ一日ニ三
 羹汁ト極メ安多羅古加里十人ヲ十晩ニ与フ而
 白血脈大ニ表皮ニ烈流シ恰モ灼力如リ脈速関
 節急慢夜ニ及テ大汗淋漓晨ニ徹ス而メ大ニ下
 下スル一而回度^{皮膚}而^下ヲ經テ尚湿润セリ
 ○用法 經久皮膚ヲ患ヘ消食極損害ナキ者ニ
 ハ後方ヲ与フ

安多羅古加里 三ノ人 廿草 九人

右昆杜一匙ト為ス一日ニ三匙或ハ四匙ヲ与フ
 或ハ患者ニ与テ即夜先^ハ起然シ次^ニ脈實ニ以
 速ニ全身発汗メ表皮灼力如キヲ覺^フ○又患者
 ニ由テ五^ニ日或ハ七日十日二十日甚シキハ
 止十日ニ至テ上ノ諸症ヲ免スル^一アリ○発汗
 量分濕ナレ氏又少シ冷ニナリ○其汗始メ数販
 ニ限ル然夜免スルニ至ル然レ氏曾テ衰弱ヲ顯
 示サス却テ健康ヲ復ス○発汗^ハ極^ニ局部ニ濕^付
 或ハ冷汗ヲ余ス其経過ノ間一定セ久○多分此
 汗皮膚^ニ濕^付ル^一部或ハ腕下手頸^ニ尻陰部^ニ

癰疽の六枚病毒を利尽るに至る。下経過する。○
全身ノ発汗局部ノ発汗共熱カヲ致ス。下ガリ。○
夜汗始メテ発スルヤ忽チハルセフレヨシ
シ癰大ニナリ赤色増進。此病毒ハ秘旺盛ニ痒シ
逆テ班ヲ発ス。患者或ハ子一テ罹ルニ罹リシカ
ンセ患者ハシカシユセ罹ルニ罹リ或ハ患者ニ
於テ痒甚シリ毎朝消散ス。下謂ヒユケルス。○罹
ル。○局部抗拒ノ経過一定セスト。此其間夜毎ニ
痒減シ。随テ赤色亦減ス。患者ハ一日ヲ
経テハイデハシ得タリ
○全身及ニ局部ノ抗拒ハルベクセリ。病毒ヲ駆

セス。付トナレハ熱ナキカ故ナリス。下シコレ及
ニ一種ノ変動ニ由テ明症ス。此熱ヲ発セシカニ
安良羅古加里ヲ持久シテ便チ運送シ盛ニシテ
介ノ発汗ヲ得ルニ至ル
○第一変動ハ医案ノ全身各部ニ発汗ヲ催進ス
ル。此ノ衝動ナリ
○第二スベシセシハ医案ニ由テ発シタル熱ナ
リ。○此様抗拒ノ経過ト同ベルス。患者ハ頭
ヲシ總テ之ニ属ス。此症較著ニ増劇ス。○鮮熱
ハ患者ノ症候順良ニナリ。快飯日シ進チ進ム
○リ。上ニ此ノ全身各部ノ悪候ヲ以テ快飯

又確徵トス〇總体ノ變動大甚ニ過ハ、安多羅
右加里ヲ停止スルニ至ラス〇拵拒ヲ挺發スル
最動ニ於テ消長機ヲ癢ス而テハ否〇順序ノ
脈ヲ變動ノ終期乃ニテニシカシ、一快後ヲ微
ステイスカウエ、一八元素變性ヲ素トスル者ノ
ナリ
疏花安多羅右加里、其効安多羅右加里ヨリ迅
速ナリ然レモ安多羅右加里ハ其上位ニ抽シ又
何ントナレハ緩徐ノ効力彼ノ迅速駿ヲ一眈ニ
顯ワスニ優ルハナリ
〇良善ノ握生ヲ保持スルハ弱年ノ徒順良ノ形

況ヲ得ルニ從テ七月ヲ經テ快復ヲ得、四十五十
齡ノ輩ハ四年ヲ經テ其域ニ至ル〇此經久癢疾
効ヲ匡案ニ假テサルモ亦ヨリ疾病ヲ快復シ且
ヨリ匡案ノ効力ヲ逞シカラシムルニ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

醫典埴如里

○製法

○製法 出石灰三斗 剥苺垂斯ニテ雨水十六斗
右生石灰ト剥苺垂私トシ合シ鐵壺ニ内レ水ヲ
加ヘ火ニ上セ木槌ヲ以テ半斗量ナク攪セ煮ル
ト四分粒此液少許ヲ介介テ取濾過ニ試ニ酸味
ト液ヲ之ニ加フルニ滾動スレハ垂ル加利埴末
又純粹ナラザル候トス致ニ本ノ液ニ生石灰少
許ヲ加ヘテ鏡裂トナシ滾動セザルニ至ルベシ
又木ツトアスレ湯ニ焙シタル液ヲ以テ其液
ヲ以テ其液ニ加フル中四八石灰過尋ニナリ

中ニ混和スルニ酸ヲ加フシモ滾動スルヲ其少
 リ又ホトア不ニ成フシモ沸ヲ升ルハ此取鏡裂
 上好ナル候トス硝子ノ漏斗ニ布片ヲ重子シキ
 是レ右液ヲ注内テ硝子壺ニ滲漏セシメ候ニ少
 シ絞リマシ其液ヲ火ニ上セ水尻ヲ並散シ減メ
 ハノノ量トナシ是ヲ大ナル硝子壺ニ移シテ
 固封メ静定シ澄清トナルニ至テ其滓ヲ去リ硝
 子壺ニ収メ硝子塞ニテ固封シ貯メ
 ○固性硝石ニホトリアスノ代用
 製法
 甘鍋ニ火ニ上セ漸リ火ヲ加ヘ精製硝石ノ末ヲ

投メ焙シ是ニ本灰ノ通紅ナル小片若リハ其細
 末ヲ以テ少許宛投メシハ爆声ヲ発メ焚燒シ數
 ニ是ヲ投メテシモ焚久消石凝固スルニ至テ愈
 火ヲ増シテシモ烟氣ナキヲ度トシ於冷スレハ
 硝石ニ含メル塩尽リ攪化メ白綠色ノアルカリ
 塩トナリ氣ニ觸レハ速ニ溶解ス是ヲ辟湯ニ焙
 シ火ニ上セ煮乾メ乾固ノ白塩ト為ス之ヲ又細
 末トナシ壺ニ入シ炭火ニ上セ通紅ニ至
 シハ白色トナル是固性硝石ナリ
 ○生石灰

製法

石炭ニ水直下加ハ煉リ産スルシ。燒フニ乾許
 大氣ニ鋸レサリシムルヲ要ス。
 誠ニスワールルシユールニ投スル沸騰セ
 ナル者ハ上好ノ品トス。
 此ノ水直下加ハ煉リ産スルシ。燒フニ乾許
 大氣ニ鋸レサリシムルヲ要ス。
 誠ニスワールルシユールニ投スル沸騰セ
 ナル者ハ上好ノ品トス。

和南救急三法

宇田川玄真

譯述

救急奇驗三法

救急三法ハ方一溺死ヲ救ニ方二凍死ヲ救方三
 初生児虚弱ニ方死胎ノ如キヲ救フ法ナリ
 ○救溺死小引毎條ニ小引之字ヲ真冠ル所ナ
 按ニ都鄙共ニ年々水死ノ者少カラズ或ハ船覆
 リ或ハ過テ水ニ墜キ或ハ牢ニ朽橋ヲ人夥リ渡
 升橋落テ溺死スルノアレモ的實ノ良法ヲ以テ
 救治シ奇驗ヲ奏スルヲ稀ナリ又將取水中ニ沉
 ム人々其氏虚弱ノ人ハ銀ナ死ス況ヤ救取ヲ經ル

者必死之属ノ医者治療ヲ施サズ是レ從來
和漢ノ医局ニ未ダ的実ナル良法ヲ截サレハナ
リ
○ユンスル唇ト云ハル同ノ誤説ニルソ弱ノ人
半日ヲ経ルト重臣尤ニ記ス療法ヲ施セハ弱生
治スル者有ルヲ記セリ今世ニ通例溺死ノ療
法ヲ見ルニ多リハ开服ヲ絞搾シテ水ヲ吐シテ
シトス是レ益十キノミナラズ大ニ害アリ开故
ハ和同ノ医説ニ拠テ考ル溺死ハ水ヲ吞ミ由
テ死スルニ兆ス呼吸ノ窒リテ死スルナリ开故
ハ水中ニ在テ呼吸スル寸ハ水忽チ气道ニ入

噎塞スル故ニ咽喉間合ノ機搏ヲ為スヲ能ハス
呼吸又速カニ塞ルユヘニ水ヲ多リ吞ミ能ハサ
ルナリ或ハ开服多ク大ニ脹ルヲアルハ开塞リ
タル氣出ルヲ能ハスナ腹中ニ緊満スルナリ故
腹部ノカシ極メ絞搾スレモ水ヲ吐キ多カラサ
ルヲ以テ知ルヘシ又此ノ如キ虚暴ノ治法ヲ施
ス寸ハ却テ之カ為ニ胸腹内ノ血脉破裂シヤ
モスレハ血ヲ吐スル者アリ然レハ此ノ如キ誤
治ニ由テ益ハ人ノ主路ヲ断テ愈ニ死地ニ入シ
ムト謂フヘシ又和同ノ溺死ヲ救フ諸方中ニ水
ヲ吐カシムル一方者ナキヲ以テ知ルヘシ是

救急ノ和行ノ医者ナリトバニリンホノ説ヲ
撰ム。ナカニ説ス。此ノ如キ非常ノ患。危ト多ク。尚
能ク細蜜ニ心ヲ用ミ。人カヲ竭セリ。丁實ニ性年
ニ係ル。ノ救深リ。慎ム。ナリシ。他ノ未整ノ比。ス
ハ。キニアラス。況ヤ尋常ノ諸病ニ。救テ智巧ヲ究
ムル。ナリ。此ニ準メ。知ル。ハシ。然レ。任從來。未幾ノ良
術ヲ世ニ唱明シ。衆庶ノ危厄ヲ救ヒ。矢折ヲ免レ
テ。天年ヲ全セ。ハ人世ノ大幸何シカ。之ニ加ヘシ
猶。天是道ヲ遐弃セ。ス。將來。記。字。詳。明。ミ。ハ。医術。隆
盛ノ。日。至。ラ。ハ。永。世。無。究。ハ。快。足。ニ。ハ。不。朽。ノ。鴻。業
ト。謂。ヘ。シ。

救溺法

方一。溺死ノ人。水中ヨリ。引。揚。ル。寸。ハ。速ニ。近隣ノ
家ニ。聲。表。ル。ベシ。此ハ。先ヲ。轉ニ。軟。十。ル。裊。幕。シ。
キ。或ハ。卒。カニ。此ノ。如キ。物。無キ。片ハ。救。力ニ。打。タ
ル。縮。稿。ヲ。敷。キ。廉。暴ニ。取。リ。扱。フ。ナリ。徐。々ニ。轉
セ。途。中ニ。傷。指。セ。サ。ル。様ニ。心ヲ。用。テ。家ニ。入。レ。救
カ。十。ル。裊。幕。ヲ。敷。キ。頭。ヲ。ヤ。ハ。高。リ。シ。卧。サ。シ。ム。
シ。仰。卧。セ。シ。ム。ル。ナリ。ナカレ。又。开。室。ヲ。甚。々。湿。煖ニ
ス。ル。ナリ。ナカレ。又。开。室。ヲ。甚。々。湿。煖ニ
カ。二。病。人ノ。衣。服。ヲ。メ。區。々。乾。シ。各。ル。手。巾。ノ。干。物
身。衣。機。ニ。乾。シ。タ。ル。海。部。ハ。細。隙。ヲ。區。々。干。頸。ノ。際

又其身ニ厚リ拂ハ被ニ又經相摩シ温メテ
ニシ震ニ毛織ノ仲羅羅者ヲ温メテ手更ト脊
ヲ頻リニ擦摩シ又毛ノ柔力ナル梳帚ノ柔ヲ温
メテ腋ヲ按テ動搖シ殊ニ上ノ方ハ摩擦スル
日右ノ一擦法ヲ將リモ体メス長リ行ヘシ
才三又右ノ一擦法ヲ行フ中ニ腕ニ刺絡シ殊ニ
頸ノ靜脈ニ刺絡メ血ヲ厚ス下シ若シ出血セ
ル時之ニ拘ラズ右ノ如リ愈ハ一擦スル然
モ并刺絡シタル元処ニ心ヲ着分ルベシ諸部ヲ
摩スル中ニ番ラズ血送少大ニ驚クテアレハ
ナリ

才四右ノ一擦法ト同取ニ病人ノ口ニ氣ヲ吸入シ
テ肺ノ臟ヲ張ラシムヘシ○并筒便ナル法ハ壯
實ナル人ノ一ツ病人ノ一ツ接ナカニ極テ息氣
ヲ吸入シ肺臟ニ充テ張ラシムベシ但ニ并孔
ヲリ塞リヘシ然ラサルハ并氣漏散テ肺ニ入
難ナレハ也○左ノ如リ氣ヲ吹ハル若シ吹ハ
人無ハハ纂纂或ハ遠亘ノ管ニテ吹ハルヘシ但
シ纂纂ニテ毛管ニテモ并端ヲ温シタル綿布ヲ
卷キ病人ノ口ニ入レ唇ノ管ノ周圍ニ押シ合セ
テ氣ノ漏レサル様ニシ又鼻ヲ塞キ纂纂ヲ擦
テ氣ヲ吹キテハシ○或ハ煙草ノ煙ヲ

吹入ルモ宜シ此烟氣ニテ肺ヲ薰衝シテ生気
 シ誘発スルハナリ。
 才五右ノ諸法ヲ施ス中ニ赤烟草ノ烟リヲ病人
 ノ肛門ニ勉強ニ吹入ル、下肝要ナリ之ヲ吹ハ
 ル、ニ烟草ノレ、ス、ニ外科居ト云ヘル器カ
 リ然モ急率ノ同此器ナキ中ハ九ニ記ス符便ノ
 ニ法ヲ撰ミ施スハシ。○开一煙草唇頭ヲ去リ开
 嘴ニ由リ塞リ病人ノ肛門ニ挿ミ烟草ノ烟ヲ滿
 口ニ含ミテ舌管ヨリ力ヲ拈メテ頻リニ肛門ニ
 吹入、之ヲ体ナリ更ル、長リ施スヤシ
 ○开二烟管一本ニ一同ニ烟草ヲ填メテテ火ヲ

点シテ一ホ一嘴ニ由リ塞リ肛門ニ挿ミテ火ヲ
 一ホヲ火皿ヲ固リ接合テ嘴ヨリ頻リニ更ル
 ノトトリカエ烟ヲ吹入ハシ。○右又之法ト同リ
 取ニ温醋或香氣銳烈ナル菜精ヲ面部殊ニ額額
 ニ廣擦シ又之ヲ鼻ニ嗅シムヤシ此ハ鹿角精確
 砂精ノ如シ若シ此藥精無中ハ礬醋或ハ特製ナ
 ル火所ニテモ可ナリ。○或ハ噓タバコ藜芦根マ
 三ナ十葉種芸香胡椒等ノ葉ヲ取テ細末トシ取
 、少シツ、鼻中ニ吹入レテテ神至ヲ衝動ス、
 シ但シ之ヲ一頓ニ更リ吹リテ勿レ。
 才五右ノ諸法^法ヲ履德スル、一、二、三、七、八、九、十、

右諸法ヲ暫ク施ス中ニテ聖ヲ漸次ニ適宜ハ
温煖ニスヘシ

才七病人獲生スルニテハ一切飲汁シ口中ニ注
リテ勿レ嚥下ス。テ能ハサル故ニ益ナキミナ
ラス却テ口中ニ氣ヲ吹入ルニ害アリ一
〇蘇生セハ速ニ飲食ヲ与ヘシ然レモ下ノ力
甚タ弱リナ咽ニ噎ニ易クエ止ニ甚ダ心ヲ用ニ
テ少シツ、用フヘシ
才ハ蘇生セハ更ニ相摩ヲ温メテ卧シテ灰或ハ
塩ヲ巾巾ニ捲个ハ抱身ヲ擦ラスヘシ

才九飲食ヲ進下スルヲ得ハ煎茶ニシキニ
ル、スリイルリナリム。製利少許ヲ加ヘテ飲シ
又午ヤシ温メテ午更ト替フイヨ、頗ニ二擦ス
ヘシ
才十ニ獲生メ後ハ重キ疾病ノ患者ノ如ク調
護スヘシ

救凍死法小引
按スルニ凍死ハ療法モ亦知僕ノ送居ニ的実ナ
ル説ヲ不見寒国ニテハ多ク患フルニテ却テ
民間ニテ零治驗ノ法ヲ傳フルアリ然レモ十療
法ニテ体ヲ并スル者少ナシ動モスレハ紫灰ニ

一、凍死ハ温湯ニ浸ス、身ノ大害アル治方ヲ施
フアリ往年一賤夫、隙底雪中ニ歩行シ凍死シテ
人見テ省セ又速ニ人家ニ歸入シ一医ヲ指揮シ
テ葱白煎汁ヲ以テ擦身ヲ授キ葱ス、十一時斗
愈、全身氷冷ナシ然死スル者ヲ見タリ今九ニ記
スル尚説ヲ見一ハ右ノ葱法モ又害アリ却テ可
死ヲ促スヲ知レリ因テ九ニ尚説ヲ託シ凍死
ヲ救フノ一助ニ備フト云フ

救凍死法

嚴寒ノ夜令長途ニ歩行スルホニ予年三或ハ身
体ノ一二個処ニ凍傷スルヲアリ此ハ开部

痺ニテ痛疼シ覺ヘス強硬不遂シテ白色ナリ
此症ハ雪或ハ氷ヲ搗碎キ氷中ニ加ヘ軟ク以テ
テ凍処ヲ頻リニ擦スヘシ此ノ如ク指リ戸擦
スレハ可処漸リ軟熱シテ痺ヲ差シ治ス〇然レ
テ後直ニ火爐或ハ焚火等ニテ温ムルニ十
カレ
惣身悉リ凍傷シ息脈俱ニ絶シ生治ノ候ナキ者
ハ丸ノ療法ヲ施スベシ
才一病人温燄ナリ室ニ入ルヲナカレ或ハ温
タル卧具ニ卧セシムルヲ忽レ惣身暖ムルハ速
ニ死ス〇病人ヲ冷所ニ卧サシメ大ニ糞トナ

布ハシテ餘抱身ヲ周リ雪ニテ被ニ且雪ヲ抱身
 ニ周リ押着テ置リハシテ後若シ雪融テ抱身中
 剥ケタル所在ハ速ニ雪ヲ取テ固リテ処ニ着リ
 ハシ
 方ニ若シ雪十キハ綿布ヲ二襪或ハ三襪ニ疊
 ミ此ニ氷ヲ浸シ又氷ヲ搗碎キテ寸間ニ夾ミ此
 ヲ以テ病人ノ抱身ヲ周リ被ニ卷リハシテ中ニ
 抱身乾ケル処アリハ速ニ氷水ニ浸シタル綿布
 ヲ被ニ治スハシテ此ノ如キ即功ナリ此ハ必ス
 急ラス頻リニテ綿布ヲ氷水ニ浸シ抱身ヲ被ニ
 治スハシ終ニ必ス癰液入ルナリ

方ニ若シ法ニテ生活スル寸ハ午中ヲ過テ終
 身ヲ拭ニ乾カシ衾蓐ヲ温メテ卧セシムハシ然
 レモ戸室ハ温煖ニスルナリ窓戸ヲ閉キ寒冷
 スハシテ飲汁ヲ啗下スナリ得ハ煎茶一椀ニ滿
 施所少許或ハ酢少許ヲ加ヘテ飲シムハシ
 方ニ此症全快ノ後卒中或ハ斯ノ如キ惡症ヲ罹
 ルナリアリ或ニ預メ此ヲ防リニハ漸リ快復ス
 ル頃刺絡ヲ行フハシ又九ニ記スル散茶ヲ一椀
 差リハ一匙半毎ニ小口尖ニ一匙ツ、用フベシ
 元方
 竜胆一餅至リ、焙硝十餅こり子レヤ一餅

左調勻ニ散利トス
 ○漸リ快復セハ消化ニ易キ食物并ニ羹汁ノ類
 シ進メテ室ヲ乾リ溫暖ニスヘシ
 才立快後ノ復尚午立之支節麻痺スル所アラハ
 斯説ノ如リ全愈スルニテ重或ハ氷水ニ手巾ヲ
 浸シテテ心ヲ巻キ被フヘシ
 搖搖
 右ノ救溺法ト救凍死トノ諸療法ヲ漸施シテ
 功ナシト雖氏必ス疲倦セス少間々モ休ミテ
 勉メテ久リ施スヘシ
 又右ノ諸法ヲ試サズ急リ行フヘシ一法ト雖

氏試ミスニテ急リ弄ルヘ勿レ毎次初メ指リ
 施シテ功ナキモノ久リ施スナハ遊ニ全功ヲ
 収ムルヘアリハ也又一法ニテ効ナキモノ諸
 方ヲ兼施ナ能リ効驗アリハナリ又右ノ諸方
 シ前説ノ如リ順序正リ綿密ニ法ノ如リ行フ
 ヘシ前後乱錯忽卒ニ施スヘナレ○強ニ氣
 シ肺ニ吹入レ總身ヲ標ス者氣烈ニキ菜精
 シ嚥シムルモノ法モ兼暴ニ施セハ却テ大害
 アリト知ルベシ
 虛弱之初生見テ救可法小引
 ○按スルニ略母脈中ニ在テ已ニ死ト生ル

者ハ、因テリ其機ナキ真ノ死臨ミシテ回生スハ
 ナ理ナシ然レ、稟賦薄弱ナリハ、胎ニハ母係
 臨産ノ努カニ由テ大ニ疲勞シ生レテ右啼叫
 ニ氣息脈動ナリ面色青黯胎動セズ死モ死胎リ
 如シ故ニ淺陋廉忽ノ医人曾意ヲ加ヘス死胎ト
 スルヲアリ此症ハ生氣肉畜シテ未タ絶ハサル
 ニ上ニ療法ヲ施セハ生後スル者間々ニ精練之
 医ヨリ経歴シテ尤ノ療法ヲ施スベシ
 救虚弱之初生兒如死胎者法
 ハ思生シテ脐帶ヲ截リ結ビ取揚キ見ルニ啼叫
 セス呼吸脈動ナリ面色黯慘ニシテ終テ生後リ

候ナキ者ハ、尤ノ療法ヲ施シムハシ
 才一水ト而テ等分ニシテ微温ノ浴湯トシテ児
 シ湯中ニ浸シ毛織ノ布巾ニテ全身ヲ遍リテ擦
 シ殊ニ脊ト腹トヲ摩スヘシ然レ、心ヲ用テ緩除
 ニスヘシ廉暴ニスルヲ勿レ
 才ニ右ノ如リ厚摩スル中ニ顙額心窩ニ柿キ鹿
 角精ヲ擦シ又之ヲ鼻ニ畜シメ或ハ烏毛ヲ以テ
 鼻中ニ刺ヘシ
 才三右ノ如リメ効ナリ慈徳セサル寸ハ小児ノ
 眞シ塞徐々氣ヲ以テ吹ハレテ肺ヲ張ラシメ午
 ヲ以テ予息ノ胸腹ヲ肺臟ヲ徐々按ミ下スベシ

○又、微温湯ニ塩ヲ加ヘテ洗滌法ヲ施シ而後綿
布ヲ温メテ小児ヲ巻リヘシム。
右ノ諸法ヲ一服斗リモ頻リニ施ス件ハ死胎、
ノ如キ小児モ蘇活スルヲアリシハノ、経驥
スル処ナリ。
才四或ハ初生児面赤青リシテ呼吸ノ窒ヤク
如リ兎ノ総テ生活ノ候ナキハ速カニ臍帶ヨリ
一ニ許リ、血ヲ出シ又水ニ砂糖少許加ヘテ院
腸法ヲ施シ而テ氣ヲ肺ニ吹入ル并ニ前法ノ如
諸部ヨリ擦スルハ生活スルナリ。
才五小児生レテ一二服過キ口中シハノ、粘稠
カ

液滿テ流出シ面部青色ニナルモノアリ此症ハ
可粘液ヲ口中ヨリ引出シ水ニ砂糖ヲ加ヘテ洗
腸法ヲ施シ又九ノ方茶匙ニ一抄ヲ吐下スルマ
テウリ、飲シムヘシ

示方

タルタリスス 正火ナリス 製三割碎家ハ碎
右水四十八髪ニ溶化ス

日之晚行一笛橫從疲呼吸肺病生
若使師曠是必戒君先止省山鄙聲

岸園宗古公戒笛僻

以晚一笛橫從疲呼吸
肺病生若使師曠是必
戒君先止省山鄙聲

岸園宗古公戒笛僻

五
 年
 國
 家
 通
 志
 卷
 之
 一
 上
 卷
 之
 一
 上
 卷
 之
 一
 上

97
5157

